



特徴

- 温度や湿度などのパラメーターを継続的に監視できるソフトウェア
- 8つの言語バージョン、複数サイトでの使用や広域の監視に最適
- 事前構成済みレポートとカスタムレポート
- 設定可能なアラーム通知 (Eメール、SMS、または可視 / 可聴アラームが利用可能)
- メンテナンス期間や作業ソフトに合わせて、しきい値アラームとアラーム通知の配信時間のスケジュールが設定できる
- 初めて使用するユーザーのために使用方法についてのガイドが装備されています

ヴァイサラのエンタープライズサーバーには、有線や無線の接続形式を組み合わせる異なる複数のタイプのヴァイサラ製データロガーを接続できます。計測点が1～2箇所の小規模な設置にも、多拠点を監視する大規模システムにも対応できます。クリティカルな規制環境を監視するために設計されたviewLincは、監査証跡、アクセス権限、暗号化による安全性と認証水準で法規制に準拠し、データインテグリティを担保します。

信頼性の担保

viewLincはMicrosoft® Windows® サービスとして稼働し、サーバーの再起動が必要な場合はviewLincサービスが自動的に再開します。ユーザーはサポート対象のブラウザを搭載したネットワークコンピュータまたはモバイル機器を使用してviewLincにログインします。viewLincの対応言語は、英語、ドイツ語、フランス語、ポルトガル語、スペイン語、スウェーデン語、中国語、日本語です。また、UTF-8に準拠しており、マルチバイトの文字セットを使用できます。

ライセンス

viewLinc Enterprise Server または デバイスホストをインストールするにはそれぞれライセンスキーが必要です (許可されるデバイスの数はライセンスキーで定義されます)。

アップグレード

旧バージョンのviewLinc (3.6.1以降) は、5.0にアップグレードできます。サーバー / データベースのサイズに応じて、アップグレードは数分から数時間 (4～6時間) かかります。

システム要件

- 24時間365日稼働でviewLinc Enterprise Server ソフトウェアを常時実行する専用サーバー。
- 1つ以上のヴァイサラのデータロガー、ヴァイサラの無線データロガー、またはヴァイサラのHMT300シリーズ変換器。
- データロガーの接続と無線データロガーの設定に使用するヴァイサラのケーブル。

- オプション：追加の専用サーバーまたは共有サーバー (複数のサイトでviewLinc デバイスホストソフトウェアを実行するデバイスを管理する計画の場合)。
- オプション：リモートディスプレイ端末 (ユーザー用PCを使用しないサイトを監視する計画の場合)。
- オプション：vNetデバイスおよびマルチポートイーサネットデバイス (ヴァイサラのデータロガーとviewLincをイーサネットで接続する場合)。

技術情報

サーバーの要件

可用性	24時間 365日
サーバー管理	無停電電源 (UPS) に接続 オープンファイルのバックアップ に対応したバックアップソリューション
	ネットワークタイムプロトコル (NTP) サーバーに基づく時刻同期
オペレーティングシステム	Windows Server® 2016 Windows Server® 2012 R2 (64ビット) Windows Server® 2008 R2 (64ビット) Windows® 10 (64ビット)
仮想サーバーのサポート	VMWare
アプリケーションのディスク容量	350MB
データベースのディスク容量 ¹⁾	200KB/データポイント ^{2)/日}
ネットワークトラフィック ³⁾	約 100KB/分/デバイス
Web インターフェースプロトコル	TLS 1.2
Web インターフェース用の セキュリティ証明書	認証済みの TLS 証明書とキー ⁴⁾
E メールエンコーディング	RFC 2047
安全な E メールプロトコル	TLS 1.2

- 1) デバイスホストのインストールは対象外
- 2) データポイントとは、データの監視と記録を行うデバイスチャネルです
- 3) デバイスの数、システム構成、通信デバイスのタイプによって異なります
- 4) 自己署名証明書とキーはインストール中に生成できます。

システムサイズごとのシステム要件

データポイントのシステムサイズ	< 20	21 ~ 399	400+
専用または共有サーバーCPU	いずれか	いずれか	専用
	1.6GHz デュアルコア	1.6GHz デュアルコア	3.2GHz ク アッドコア
RAM	8GB	12GB	16GB
ディスク容量増加/年	1.5GB/年 (20 データ ポイントの 場合)	15GB/年 (200 デー タポイント の場合)	75GB/年 (1000 データポ イントの場合)
レポート用の継続的なディスク 空き容量 (1 か月間、サンプルあ たり 1 分のスキャン)	2GB	4GB	10GB

クライアントの要件

インターネットブラウザ	Google Chrome™ Microsoft® Internet Explorer® 11 Microsoft® Edge™
コンピュータークライアント	サポートされているインターネット ブラウザ、2.4GHz の CPU、4GB の RAM を搭載したネットワークコ ンピューター。
ディスプレイおよびタブレットク ライアント	タッチスクリーンまたはマウスで操 作するパネル、サポートされている インターネットブラウザ。 viewLinc Enterprise Server と同じ ネットワークサーバーへの接続が 必要です。

デバイス接続要件

無線デバイス	
RFL100 シリーズ ¹⁾	ヴァイサラ VaiNet プロトコルを使用 して接続します。AP10 アクセスポ イントのインストールが必要です。
HMT140 シリーズ	Wi-Fi プロトコルを使用して接続し ます。HMT140 設定ケーブルを使用 して設定する必要があります。
300 シリーズ変換器	WLAN または LAN インターフェー スを使用して接続します。
有線デバイス	
vNet デバイスを使用した DL シリーズ	vNet PoE デバイスは 802.3af に対応 し、エンドポイントおよびミッドス パンのシステムの両方と連携しま す。viewLinc Aware は、vNet デバイ スを自動的に検出して設定します。 電力使用量: クラス 1 (0.75 ~ 1W、最 小電力クラス) ²⁾ vNet デバイスのドライバー (付属) が 必要です。
マルチポートイーサネット デバイスを使用した DL シリーズ	電力使用量: クラス 2 (4 ~ 6W)。 デバイスは固定または予約済み IP ア ドレスを使用して設定する必要があ ります。デバイスを異なるサブネッ トに設置する場合は、設置前に設定 する必要があります。ヴァイサラデ バイスを接続するために使用する各 サーバーに、イーサネットデバイ スのドライバーをインストールする 必要があります。
シリアルケーブルを使用した DL シ リーズ	デバイスを直接、シリアルとロガー を接続するケーブルを使用し て、viewLinc Enterprise Server ま たは viewLinc デバイスホストに接 続します。シリアル COM ポートが 必要です。 ³⁾
USB ケーブルを使用した DL シ リーズ	USB とロガーを接続するケーブルを 使用して、デバイスを直接 viewLinc Enterprise Server または viewLinc デバイスホストに接続します。USB ポートが必要です。 ³⁾

- 1) RFL100 シリーズ、AP10 アクセスポイントは日本国内未発売です。
- 2) vNet デバイスは 10Mbps のネットワーク速度で稼働し、電力使用量を低く維持します。ネットワークデバイスが異なる速度で稼働できるようにするには、ネットワーク速度を接続先の vNet ポートに合わせて設定してください (vNet User Guide を参照)。
- 3) viewLinc Enterprise Server を仮想マシン (VM) にインストールしている場合、VMWare® が viewLinc 対応モデムでテストされていることに注意してください。現在サポートされているモデムの一覧については、ヴァイサラ技術サポートにお問い合わせください。

ネットワークポート

ポート	ポートの種類	使用者
443	TCP	ユーザーインターフェースへのク ライアント接続
771	TCP	vNet およびマルチポートの イーサネットデバイス
950	TCP	Moxa シリアル - WiFi デバイス
6767	UDP	HMT140
12600	TCP/UDP	VaiNet アクセスポイント、vNet ま たはデバイスホストによる viewLinc Enterprise Server 接続

viewLinc 5.0 には、OpenSSL ツールキットで使用するた
めに OpenSSL プロジェクトによって開発されたソフトウェア
が含まれます。

<http://www.openssl.org/>